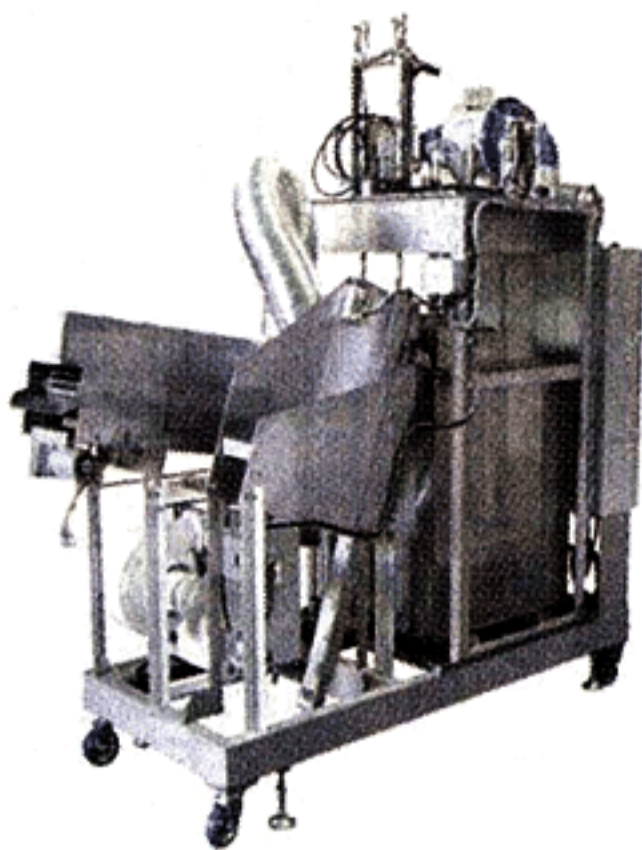


新型潤滑剤塗布装置

石原鉄工など共同開発

冷間鍛造用

機械メーカーの石原鉄工(本社・名古屋市中区大高町丸の内97-1、社長・石原邦雄氏)



開発した潤滑剤塗布装置

て冷間鍛造用ブランクに短時間かつ効率的に潤滑剤を塗布することが可能で、3社で共同特許を申請中。

3社は中小企業事業活動促進法に基づく異分野連携新事業分野開拓計画(新連携計画)の認定を受けて石原鉄工をコア企業とする連携体を構成、新塗布装置は日本パーカラライジングが全国販売する。

ユニバーサルジョイントを冷間鍛造法で製造している協和工業は、受注量拡大に伴ってプレス機の増設を行うとともに、それまで外注していた鍛造用ブランクへの潤滑剤塗布工程もリン酸塩皮膜ラインを導入して内製化することを検討した。

ラインが大型で設置面積が大きくなるほか、廃水処理設備が必要なことや多品種小ロット生産に対応しにくいといった問題があり、潤滑剤溶液に漬けるだけで塗布できる日本パーカラライジングの潤滑剤「PULS」に着目。石原鉄工に依頼して新型の塗布装置を開発した。協和工業では現在6基を導入している。

とユニバーサルジョイントメーカーの協和工業(同・愛知県大府市横根町坊主山1-31、同・鬼頭佑治氏)は、冷間鍛造工程で多品種少量生産に対応できる

新型の潤滑剤塗布装置を開発した。日本パーカラライジングの潤滑剤「PULS」を使用し

新型塗布装置は、給材は手でバスケットから給材装置に投入、ブランクの余熱、潤滑剤塗布、乾燥を自動で1サイクル5秒で行いプレス機に供給する。

新型塗布装置の販売価格は標準タイプで1基800万円程度を予定している。

に低減される。

少量生産に対応できる

新型の潤滑剤塗布装置を開発した。日本パーカラライジングの潤滑剤「PULS」を使用し

新型塗布装置は、給材は手でバスケットから給材装置に投入、ブランクの余熱、潤滑剤塗布、乾燥を自動で1サイクル5秒で行いプレス機に供給する。

新型塗布装置の販売価格は標準タイプで1基800万円程度を予定している。

に低減される。

新型の潤滑剤塗布装置を開発した。日本パーカラライジングの潤滑剤「PULS」を使用し

新型塗布装置は、給材は手でバスケットから給材装置に投入、ブランクの余熱、潤滑剤塗布、乾燥を自動で1サイクル5秒で行いプレス機に供給する。

新型塗布装置の販売価格は標準タイプで1基800万円程度を予定している。

に低減される。

に低減される。

新型の潤滑剤塗布装置を開発した。日本パーカラライジングの潤滑剤「PULS」を使用し

新型塗布装置は、給材は手でバスケットから給材装置に投入、ブランクの余熱、潤滑剤塗布、乾燥を自動で1サイクル5秒で行いプレス機に供給する。

新型塗布装置の販売価格は標準タイプで1基800万円程度を予定している。

に低減される。

に低減される。